

AIKIDO

取扱説明書

(株)アンブレラカンパニー

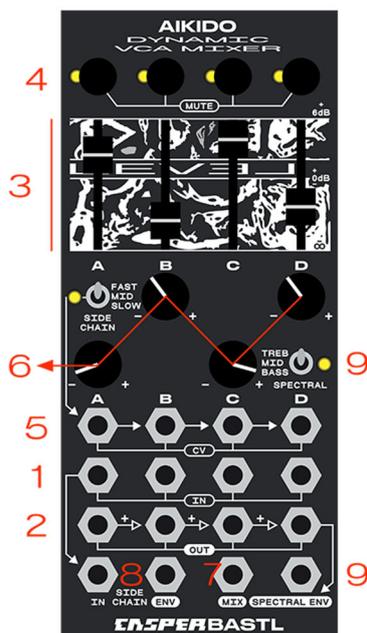
www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

Aikido は、フレキシブルなサブミックスルーティングが可能なパフォーマンス的なクワッド VCA ミキサーです。

ルーティング、そして 2 スタイルのエンベロープ・フォロワーが搭載されています。巧みなサイドチェーンコンプレッションやエクスパンド、など様々なルーティングの実験が可能です。



1

VCA 信号入力は DC 結合で、オーディオと CV 信号（モジュレーション信号）の両方に対応します。

2

VCA のダイレクト信号出力は DC 結合されており、カスケード接続でミックスされます。チャンネル D からの出力は、すべてのチャンネルがミックスされた状態になります。他の出力にケーブルをパッチ接続すればカスケード接続のミキシング・チェーンを解除できます。チャンネル A、B、C、D のすべてにケーブルを接続すると、それぞれ独立した出力となります。チャンネル C OUT にのみケーブルを接続すると、A、B、C がミックスされた状態となります。

3

オフセット LEVEL フェーダーは、VCA を開いたり閉じたりできます。中間点付近でユニティーゲイン（0 dB）となり、最大で +6 dB まで増幅されます。ブーストはコンプレッションやフィードバックに非常に有効です。VCA CV とオフセット LEVEL フェーダーは、チャンネルのボリュームをコントロールするために組み合わせられます。

4

クリックレスのMUTEスイッチは、対応するチャンネルをミュート（消灯）またはミュート解除（点灯）します。スイッチをゆっくり押し離すとフェードイン、フェードアウトの効果が得られます！MUTEスイッチは、そのチャンネルがMIX出力に反映されるかどうかを常に決定します。背面のジャンパーを使用して、ダイレクトVCA出力がMUTEスイッチの影響を受けるかどうかを選択することができます。ジャンパーをPREの位置に設定するとVCA出力は影響を受けず、POSTの位置に設定するとMUTEスイッチの影響を受けます。

5

CV入力は、VCAの入力と出力間のゲインに影響を与えます。CV入力はリニアです。CV信号はアッテネータを経由し、LEVELフェーダでミックスされます。SIDE CHAINエンベロープフォロワーは、チャンネルAのCV入力にノーマライズされます。従って、CVインプットにケーブルが接続されていない場合、すべてのチャンネルがSIDE CHAINエンベロープフォロワーの音を聞くことになります。インプットにケーブルを接続すると、VCAを個別に制御することができます。

6

アッテヌーターは、CV入力の信号がVCAにどれだけ適用されるかを調整します。中央に設定すると（ノッチがあります）CVは影響しなくなります。右に回すと、CV入力のレベルへの影響度が徐々に大きくなります。左に回すと、CV入力信号が反転して影響していきます。エンベロープフォロワーと併用する場合、左に回すとコンプレッサー効果が、右に回すとエキスパンダー効果が得られます。

7

MIX出力は、全チャンネルがミックスされます。AC結合なのでオーディオ信号に適しており、余分なDCオフセットは除去されます。MUTEスイッチの状態は、常にMIX出力に反映されます。

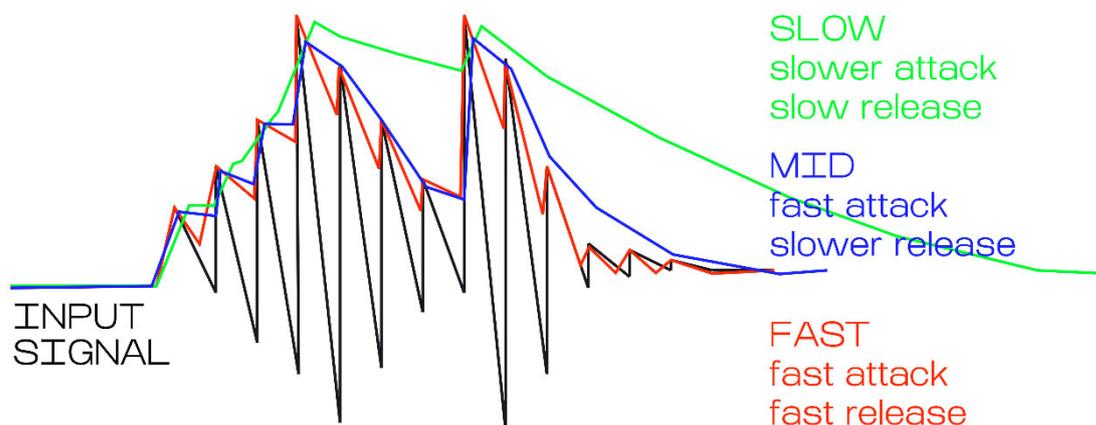
8

SIDE CHAINエンベロープフォロワーは、入力レベルをモニターし、信号の音量をCV値に変換できます。チャンネルAの入力は、SIDE CHAIN INにノーマライズされています。SIDE CHAIN INを他の信号で使用する場合は、ケーブルをパッチ接続してください。SIDE CHAIN ENV出力は、チャンネルAのCV入力にノーマライズされ、さらにチャンネルB、C、Dにノーマライズされます。

SIDE CHAINスイッチにより、3つのレスポンスカーブを選択することができ、3スタイルのコンプレッサー設定に便利です。FAST設定はアタックとリリースが速く、タイトなコンプレッションに適しています。MIDはオールラウンドに使える一般的なセッティングで、アタックはかなり速いですが、リリースは遅めです。SLOWセッティングは、サイドチェインエフェクトをより誇張するのに有効で、リリースとアタックがかなり長くなっています。

ENVELOPE FOLLOWER RESPONSE

ENVELOPE FOLLOWER RESPONSE

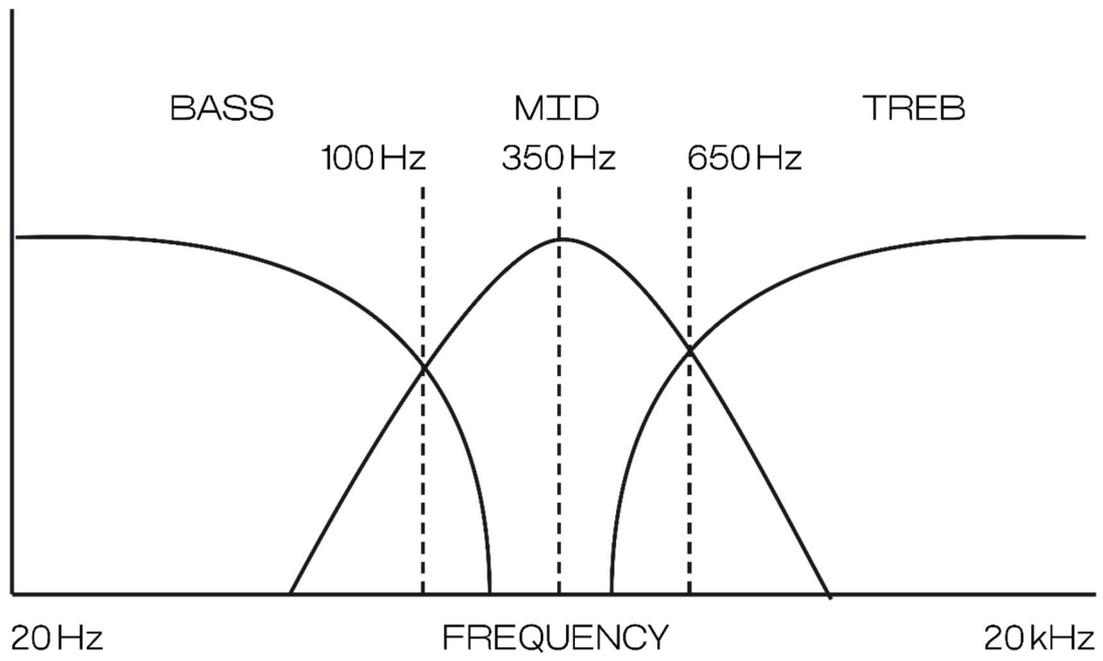


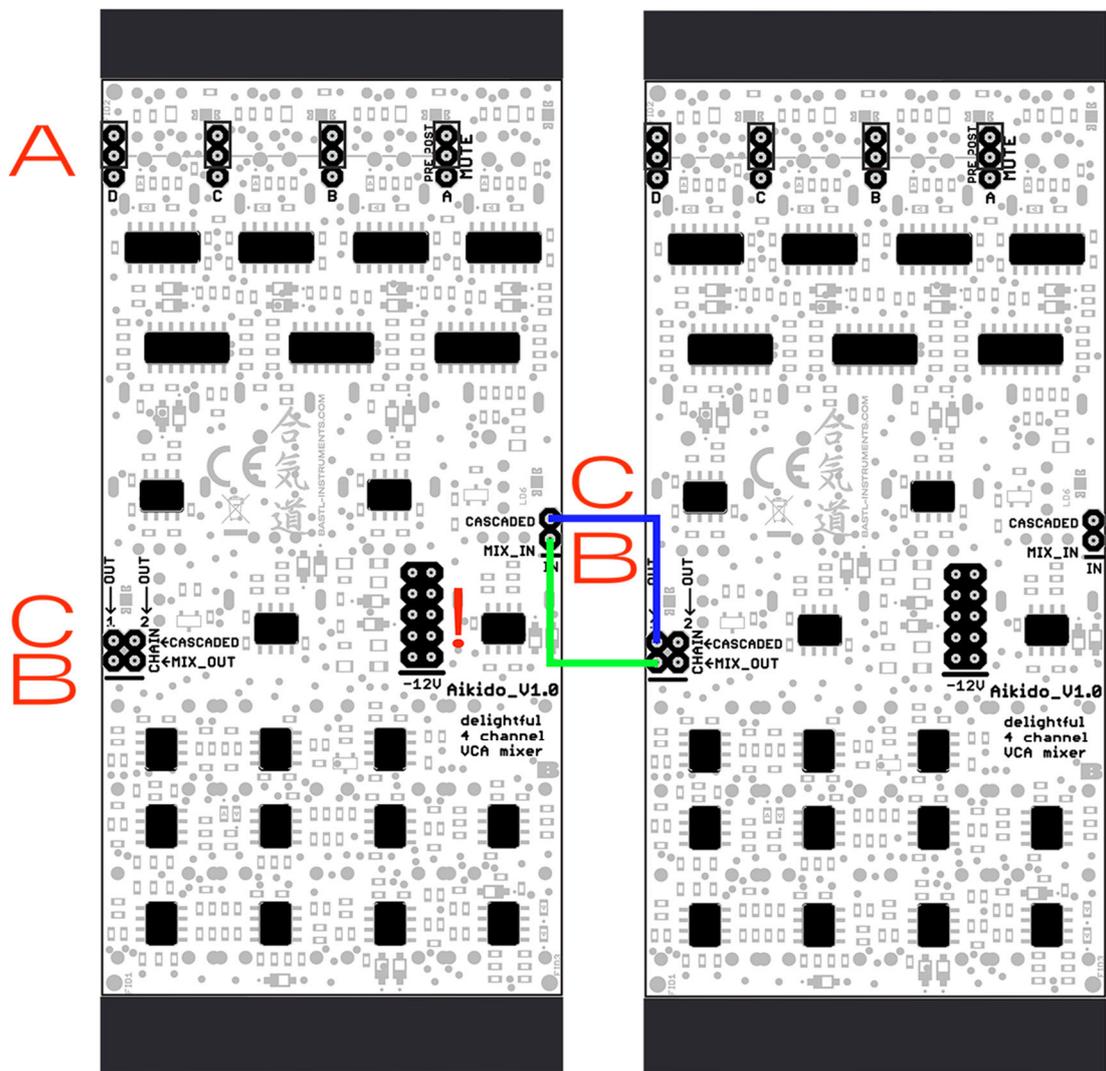
Tip: SIDE CHAIN IN にトリガーを送り、SIDE CHAIN スイッチを使用すると、異なるエンベロープを得ることができます。これらのエンベロープをコンプレッションに使用したり、単独で使用したりすることができます。

9

スペクトラルエンベロープ・フォロワーは、SIDE CHAIN フォロワーの MID 設定と同様のレスポンスタイムを持っていますが、その主な特長は、応答する周波数帯域をスイッチで選択できることです。スペクトラルエンベロープフォロワーはチャンネル D 出力（カスケードミックス出力）を解析し、任意の場所にパッチできる専用出力を備えています。BASS セットアップの場合では主に 100 Hz 以下の周波数に、TREB 設定では 650 Hz 以上の周波数に、MID 設定では 100 Hz から 650 Hz の間の周波数に反応します。

SPECTRAL ENVELOPE FOLLOWER FOCUS





A

PRE/POST ジャンパー

チャンネルのダイレクト出力が MUTE スイッチの前か後かを設定するジャンパーです。PRE に設定した場合、チャンネル出力は MUTE スイッチの影響を受けません。POST ポジションに設定すると、チャンネル出力は MUTE スイッチの影響を受けます。

B

MIX IN / MIX OUT CHAIN HEADERS

ジャンパーワイヤーを使って、複数の Aikido モジュールをチェーン接続することが可能です。

MIX_OUT ヘッダーは 2 重になっているので、BUDDY の左右のチェーン入力や、他の 2 つの出力先に接続することができます。1 台目の合気道の MIX_OUT ジャンパーピンを 2 台目の合気道の MIX_IN ピンに接続した場合、1 台目の合気道の MIX 出力が接続されていなければ、2 台目の合気道の MIX 出力には

2 台分の合計が出力されることとなります。その場合、各モジュールの MIX OUT は独立したものになります

C

CASCADED CHAIN HEADERS

ジャンパーワイヤーを使って、複数の Aikido モジュールをチェーン接続します。1 台目の合気道のジャンパーピン CASCADED OUT を 2 台目の合気道の CASCADED IN に接続すると、1 台目の合気道のチャンネル D OUT を接続しない限り、2 台目の合気道のチャンネル A 出力以下は両モジュールの和が出力されることとなります。この場合、2 台目の合気道の出力のカスケードミキシングは独立したものになります。



POWER!

このモジュールにリボンケーブルを接続する前に必ずシステムの電源を切ってください！

リボンケーブルの極性を確認してください。リボンケーブルの極性を再確認し、どの方向にもずれていないことを確認します。赤の印がモジュールとバスボードの両方で、-12V レールと一致する必要があります。

！ 次のことを確認してください。

- ・ 標準的なピンアウトのユーロロックバスボードを使用していること。
- ・ バスボードに +12V と -12V のレールがある。
- ・ 電源レールが電流でオーバーロードしていないこと。
- ・ 本装置には保護回路がありますが、誤った電源接続による損傷については責任を負いかねます。全ての接続が完了し、ダブルチェックを行った後、システムを閉じて、電源ラインが手で触れないようにした後、システムの電源を入れ、モジュールをテストしてください。

PATCH TIPS



クラシック・サイドチェーン

Channel A LEVEL フェーダーとアッテネーターでキックドラムをコンプレッション/エクスパンドし、そのトランジェントをシェイプします。Channel B のアッテネーターを左に回して、ベースをキックドラムにサイドチェインさせます。サイドチェーン・エンベロープ・フォローは Channel A インプットを解析するので、キックドラムをミュートしても、サイドチェーン・コンプレッションを聞くことができます。キックドラムの音が聞こえるときだけサイドチェーンコンプレッションを使用したい場合は、Channel A OUT を SIDE CHAIN IN に接続してください。また、Channel A のジャンパーが POST Mute の位置にあることを確認してください。

ゲートッド・フィールド・レコーディング

ドラムセクションをチャンネル D へ、フィールドレコーディングまたは録音済のオーディオをチャンネル A へ、SPECTRAL ENV をチャンネル A の CV インプットにパッチします。チャンネル A のアウトを聴きます。LEVEL フェーダー A を下げ、Channel A のアッテネーター を開放します。録音された音はドラムセクションによってゲートされ、リズムに変化します。

SPECTRAL スイッチで、リズムのどの部分でゲートをかけるかを選択します（BASS - キック、MID - スネア、TREB - ハット）。

クラシクトレモロ

Channel A IN に信号を接続し、Channel A CV インプットに LFO を接続します。アッテヌバーターを開くと、クラシクなトレモロ効果が得られます

リングモジュールドロニング

Channel A IN にオシレーターを接続し、Channel A CV インプットに別のオシレーターを接続します。アッテヌバーターでリングモジュレーションを発生させます。Channel B IN に別のオシレーターを接続し、MIX 出力を聞きます。オシレータの周波数を互いに近づけて、フェイジング・ドローンを生成します。さらに多くのオシレーターや、1 つのオシレーターの異なる出力を接続すると、究極のドローン体験が得られます。

オートパンニング

オーディオ信号をマルチプルで分割し、チャンネル A IN とチャンネル B IN に接続します。チャンネル A の出力を左チャンネルとして、チャンネル B の出力を右チャンネルとして聴いてください。LFO を Channel A CV インプットに接続します。Channel A のアッテネーターを左に、Channel B のアッテネーターを右に回して、CV コントロールのパンニングを実行します。LEVEL フェーダーとアッテヌバーター

一の位置の組み合わせを変えて、ステレオ・スペクトルをナビゲートすることができます。4つのチャンネル入力にオーディオを分配し、チャンネルCのCV入口に別のLFOを入力すれば、クアドラフォニック・パンニング（チャンネルA CV=左/右、チャンネルC CV=前/後）が可能です。

エンベロープパンニング

オートパンニングと同じパッチを作成しますが、LFOを接続する代わりに、内蔵のSIDE CHAIN エンベロープフォロワーを使用します。この方法では、信号のラウドな部分を左チャンネルに、静かな部分を右チャンネルに配置することができます。また、トランジェントをサイドに、ボディを中央に配置することも可能です。

フィードバック

MIX 出力をチャンネルAのINに接続し、チャンネルDのOUTを聴いてください。その他のインプットにシグナルを接続します。チャンネルAをフィードバックチャンネルとして使用します。チャンネルAのアッテネーターでフィードバックを抑制します。

を使用してフィードバックを抑制します。アッテネーターを左に回し、LEVEL フェーダーを上げると、フィードバックが圧縮され、限られたレベルに保たれます。LEVEL フェーダーを下げ、アッテネーターは右に回すと、大音量部分のみフィードバックが上がるようになります。

ディエッサー

Channel D IN に信号を接続し、Channel D CV インプットに SPECTRAL ENV をパッチし、Channel D OUT を聞きます。SPECTRAL スイッチを TREB に設定し、Channel D のアッテネーターを左に回すと、高い周波数が現れると同時に信号を圧縮できます。こうすることで、高域のハーシュネスを抑えることができるはずです。このパッチでは、Aikido は高周波数だけでなく、信号全体を圧縮することに注意してください。

パラレル・コンプレッション

オーディオ信号を（マルチで）分割し、Channel A IN と Channel B IN に接続します。MIX 出力を聴いてください。Channel A のアッテネーターを左に回して、Channel A 自身をコンプレッサーにします。Channel B のアッテネーターを中央にして、Channel B のレベルを上げ、ドライシグナルをミックスします。このようにして、パラレル・コンプレッションが得られます。

スペクトラル・ドラム・バスコンプレッション

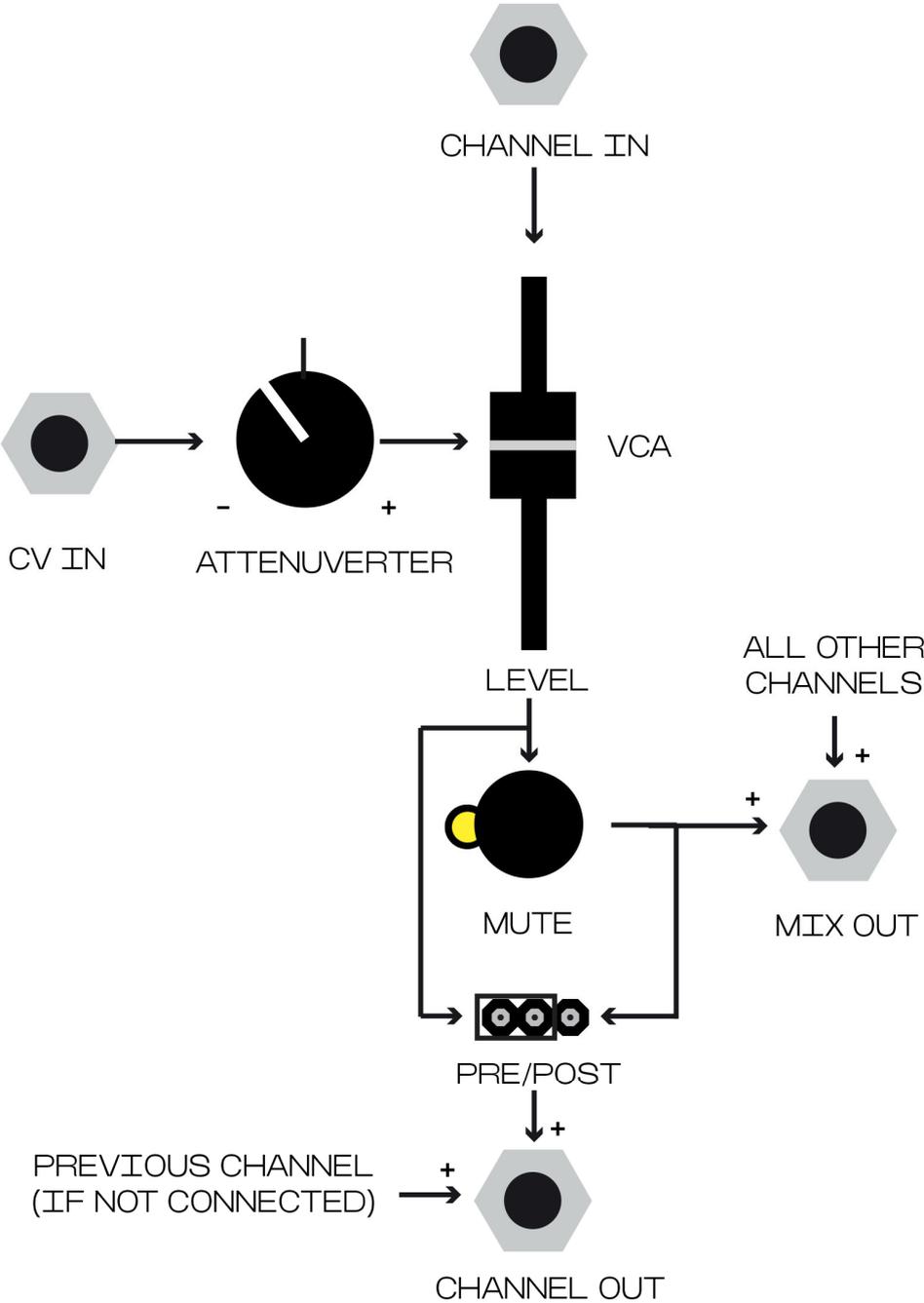
Aikido でドラムをミックスし、SPECTRAL ENV を Channel A の CV インput にパッチします。各チャンネルのアッテネーターと SPECTRAL エンベロープ・スイッチを操作して、さまざまなタイプのスペクトラル（周波数帯域）コンプレッション/エクspansionを得ることができます。いろいろと実験してみてください！

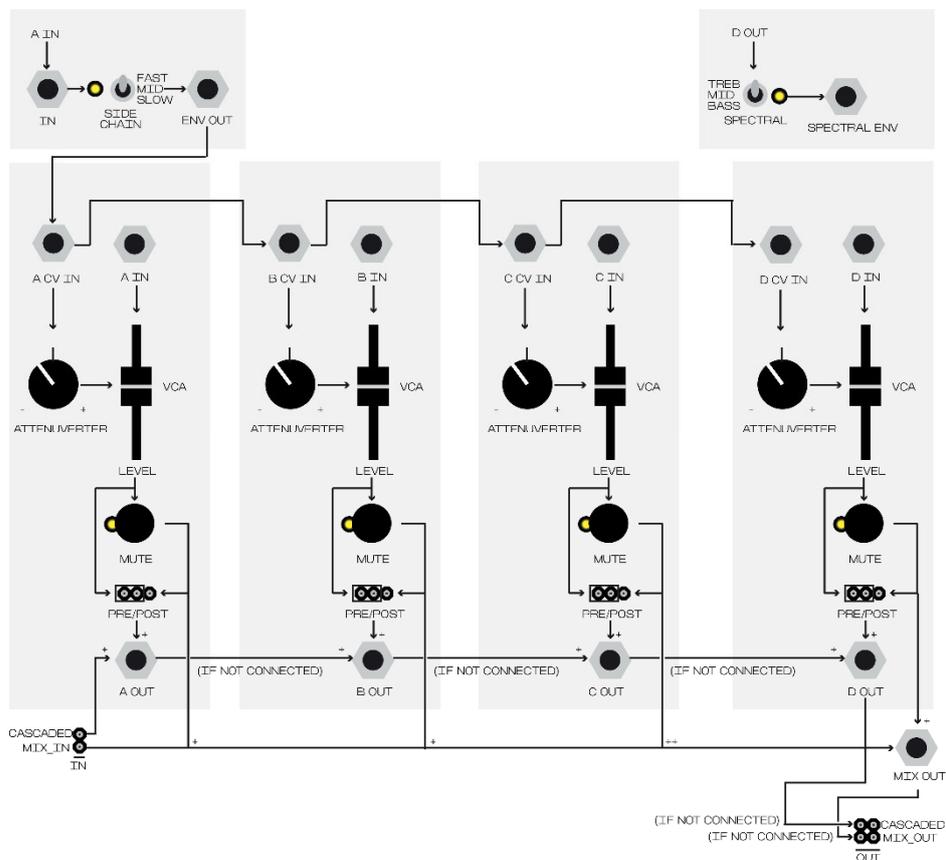
モジュレーション・ミキシング・サイドチェーン

Aikido を使用すると、モジュレーション信号とオーディオ信号を同時にミックスすることができます。例えばチャンネル D を使い、IN ジャックに LFO を接続し、OUT ジャックをフィルター・カットオフにパッチしてみましょう。Channel A でキックドラムを鳴らし、Channel D のアッテネーターを左に回して SIDE CHAIN スイッチの SLOW レスポンスを使用します。

こうすることで、キックドラムがないときだけフィルターに LFO モジュレーションがかかるようになります。あるいは、LFO のディレイ/フェードインとして機能することになります。Aikido でたくさんのモジュレーションを組み合わせると、クリエイティブで素晴らしいサウンドを創る事ができるようになります！

Block Diagram





CREDIT

DEVELOPMENT TEAM : Peter Edwards, Martin Klecl, Václav Peloušek

MAIN TESTER : Juha Kivekäs

BETA TESTERS : David Žáček, Milan Říha, John Dinger, Václav Mach, Peter,Edwards, Oliver Torr, Patrik Veltruský, Niels Aras, David Herzig,Leo Hivert

MANAGEMENT : John Dinger

GRAPHIC DESIGN : Anymade Studio

Bastl Instruments の皆さん、そしてバストルフানের皆さんの大きな支持のおかげで、このアイデアは現実のものとなりました。